

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099900047
法人名	社会福祉法人鷹羽会
事業所名	グループホームひまわり苑
所在地	福岡県田川郡大任町大字大行事519-1
自己評価作成日	平成29年8月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成29年9月8日	評価結果確定日	平成29年12月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の下、四季折々の季節感を感じていただけるよう飾りつけを工夫したり、野の花や花壇に植えてあるお花を飾ったりしています。また行事を楽しんだり外出の機会を設けたりして日々楽しみを見つけられるように工夫しています。今年に入って入居者様の入れ替わりが続き、平均年齢も若くなりました。自宅暮らしから初めての施設入居で戸惑われることも多く、慣れるのにも時間がかかりましたが、馴染みの関係を継続し、ひまわり苑での役割を見つけて生きがいを持っていただけるよう支援していきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに川が流れ、田園が広がる豊かな自然に囲まれた静かなロケーションが印象的である。法人内や系列グループには、特別養護老人ホームや地域密着型事業所があり、各種研修や各種イベントはスケールメリットを活かして効果的に行われていることも多い。明るく開放的な事業所の雰囲気にあったゆっくりとした時間が流れ、入居者もマイペースに過ごせている。定期的にリハ職が提供する運動時間があったり、個別やグループでの外出が頻回にあったり、平素より活動の機会も多い。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人はみんなのために、みんなは一人のために」の理念のもと、思いやりをもって日々業務に取り組んでいる。	法人全体の『一人はみんなのために、みんなは一人のために』という理念はリビングに掲示されており、敬老会等の行事のうちに理事長より講話もあり、その理念に含まれる思いを共有されている。事業所理念は『思いやり』『チェンジ』である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ご近所とのお付き合いは大切にし、避難訓練には声掛けし参加していただいている。取り立ての野菜をいただいたり、お菓子をお裾分けしたりして交流を深めている。	事業所より文化祭やもちつきに参加。また地域より事業所の避難訓練に参加がある等の交流がある。災害時や非常時に公民館を使用の許可も受けている。また、近隣の方との顔馴染みの関係があり、非常時等には実際に協力してくれるなど、平素から関係性を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々からの質問や要望にはいつでも応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、民生委員、役場、包括支援センター、ご家族に参加を依頼してきた。今まで管理者のみで参加してきたが今年から職員も参加し、幅広い意見を聞けて参考になったと好評である。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催され、地域包括支援センターや行政、民生委員の参加がある。現状は平日午後2時の開催で家族の参加率が低いのが課題であるが、様々なアプローチを試みているところである。会議では、自治会加入や行事、入・退院、事故報告等の運営状況が議題にあがっている。	家族の参加機会が少ないが、議事録を全家族に送付し、内容の共有に努めている。また、家族の参加機会の拡大に向けたアプローチや内容の充実に取り組んでいるところである。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に役場から1名参加をお願いしている。訪問した道の駅の設備について要望を聞いていただいたり、災害時の避難についてアドバイスををいただいている。	災害時での対応や対処の方法、アドバイスを受けるなどの実績がある。また外出で訪れた「道の駅」での、高齢者にとって危険性のある箇所の指摘と安全改善の要望をしたこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてインターネットなどから情報収集し、手のあいた時間に資料を読み、何が身体拘束に当たるのか再確認し、職員会議時に全員で話し合っている。	定期的に研修を実施している。身体抑制やスピーチロックをしないように心がけ、平素より職員との共有認識を図っている。日々の中で気になる言葉使い等あれば、その都度管理者が注意喚起する。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待に当たるか、知らないうちに虐待に当たっていることをしていないか、職員会議などで再検討している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度も管理者が権利擁護に関する研修を受ける予定にしている。また権利擁護に関する資料を集め職員がいつでも読めるように用意している。	県社協での外部研修に、管理者やスタッフが交代で参加している。入居時には管理者より家族向けに制度説明がある。また常態変化時にも制度説明がある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時において契約書、重要事項について説明し確認と同意を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、要望は毎日の生活の中で管理者や職員が聴いたり、くみ取ったりしている。家族からの意見、要望は面会時や運営推進会議時に出示いただき検討できるようにしている。	平素の面会時や、随時・電話やショートメール、ライン等を活用し、状況報告を含めた連絡が平素よりなされている。家族より、職員の言葉使いに関する指摘を受け、スタッフ会議にかけて対応を協議して改善された実績もある。運営推進会議の議事録を全家族に送付している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議時や申し送りの時に職員の意見や提案を聞き全員で検討し業務に生かせるよう努力している。	月に1回、職員全員参加を基本とする会議を開催している。利用者の状況確認やケアの変更、苦情や次月の行事等について話し合われる。スタッフの意見も積極的に述べられている。参加できないスタッフには議事の申し送りノート等で伝達される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は資格取得など職員のスキルアップを応援し、職員の努力や実績を認めている。定期的に職員の食事会や交流会を設け、ストレスの多い職種に理解を示し、発散の機会を提供してくれている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集、採用に当たっては、年齢や性別に関係なく本人の意欲を重視している。外部研修を促進し、学びたい意欲のあるものを応援し援助している。	産休・育休等で欠員が出る際は、退職スタッフ等にもあたり臨時的確保がなされたりもする。定期的にボーリングや食事等の機会があり、法人からのサポートも実施されている。外部研修においては、勤務の考慮や勤務扱いでの参加、研修費と交通費の支給もなされる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	社会福祉協議会、市町村などからの人権研修には積極的に参加を勧めている。新聞やテレビなどからの新しい情報も取り入れるようにしている。	定期的な外部研修への参加で伝達研修がなされる。またスタッフが自主的に新聞等の記事の切抜きを持ち寄ったりすることもあり意識も高い。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の内部研修や社会福祉協議会、市町村からの研修への参加、スキルアップのための資格取得を応援し、受講を勧めている。研修日は就業扱いとしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大任町のケアマネ連絡会、田川地区介護サービス事業所協議会主催の研修会参加や同じ法人内の他施設の職員との勉強会を定期的に開催している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	何でも言える関係を築くことが大切であり、そのために日頃の会話や接し方に気をつけている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	その方の情報を得るために、入居前のケアマネや、ディサービスの担当者から情報をもらい、本人や家族の要望や不安を察したり、直接聞けるような関係を築けるよう努めている。。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族やご本人との会話の中から収集した情報から、今一番何を必要としておられるのかをつかめるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員という立場ではあるが、長い時間生活を共にしている家族のような気持ちで接するようにしている。しかし適度な距離感と節度は大切である。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の一番の支援者は家族だが、職員も気持ちは家族同様であり、家族とともに支援していく気持ちを常に持って接している。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の主治医を継続し、安心感を持ってもらいたい。また行きつけの店やなじみの方との面会や外出などの交流も継続できるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医への受診や、洋服屋・美容室に平素よりスタッフ同行している。また地域の馴染みの後藤寺商店街の祭りへの参加、馴染みの新聞購読や、お気に入りのグラスで晩酌の習慣の継続の支援がなされている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの方は居室で過ごされるよりリビングで一緒におられる時間が長い。多少の争い、口げんかはあるが、職員が何気なく仲介に入り時間がたつと何事もなかったようにおさまる。自然な交流を支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られたり入院のため退去されても、職員が面会に行ったり、ご家族が採れた野菜を持ってきてくださるなどの交流が続いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今年の誕生日には日頃の会話からその人が欲しがられていそうなプレゼントを職員が考え、買い物をして贈っている。	入居時に本人や家族より思いや意向を確認している。生活暦においては0から19歳、20～39歳、40～59歳、60歳～89歳、90歳以上の5段階に分けて生活暦の整理もなされており、スタッフ間で共有しやすい。入浴時等、本人と職員との1対1の場面では、普段とは違う一面が表出されることも多い。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれに担当の職員を配置し、ご家族やご本人の会話の中からその方の生活歴を聞きまとめている。そこからわかるその方の生き方を継続できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックでその日の体調を把握し、日常会話によって心の状態を察するよう努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議で担当者がその月の健康状態や生活状況を報告し、家族の面会時には状況報告をして要望や意見がないかたずね、介護計画に反映するよう努めている。	利用者個々のケアについて、月1回のスタッフ会議や毎朝礼時に細かく調整されている。特に入居者の意欲につながる活動や参加の内容については重要視されており、個別性を捉えた様々なアプローチケアがある。またそれはスタッフ間でよく共有されている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康面では細かくチェックし、体調の変化に気づき早めの対応をしている。気が付いたことは記録にとどめ、申し送り時や職員会議時に話し合っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中で何気なく発せられる言葉や様子から何を望んでおられるか察し、できるだけ実現できるよう努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの施設や自然を利用し、自宅にいるような感覚で過ごしていただきながら、自宅ではできないような体験もしていただけるよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前の主治医を継続してもらっている。受診時にはご家族か職員が付き添い、適切な指示をいただいている。	基本的には、入居前のかかりつけ医への受診が家族との連携を活用しながら行えるように、スタッフで受診の支援が行われている。また、常態変化時には訪問看護事業所との連携で追加受診ができ、定期受診も含めて随時家族に報告されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	それぞれの主治医からの指示や受診内容を週1回の訪問看護来苑時に伝えアドバイスをもらっている。体調の変化時は受診前に相談したり、24時間体制で夜間でも急変に対応してもらっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中でも職員が交代で様子を見に行き、ご家族や病院関係者から情報を得ている。退院指導時は医療面や食事面でのアドバイスをさせていただき、スムーズな退院に向けて努力している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針を説明し理解を得ている。施設のできることとでき尚ことを明確にし、その後についても誠心誠意相談に乗るようにしている。	重度化した場合や終末期のあり方については、入居時及びその常態変化時に状況に応じて説明を行い、方針の共有に努めている。隣接して同法人施設もあり、入居時に説明を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	今年度は法人全体で救命救急講習会を2回設け、職員全員が受講し改めて講習の必要性を感じている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議では何度も話し合っていたが実際7月の豪雨で避難することになった。今後は夜間を想定した取り組みも必要。避難訓練では消防署から指導を受け隣家の協力も得ている。	豪雨時に近隣の河川の水位が上昇し、高台に在る同法人施設へ避難(2泊)した経緯がある。また、自治区内の公民館も災害時の使用許可を受けている。訓練時には地域に声をかけ、実際に隣家の参加を得ているほか、民生委員の方より用水路に関する情報も届けられる。また水やレトルト食品・カップ麺・カセットコンロ(ボンベ)等の備蓄をしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の居室への出入り時は声掛けをし、勝手に入らないようにしている。言葉かけも相手を尊重した言葉遣いに気を付けている。	ドア開閉時に居室内がすぐ見えないように、視線を遮断する配慮が行われていたり、言葉使いについても、馴染みの関係性や地域性に配慮しながら、慣れあいとならない様心掛けています。また、朝の起床や生活時間は本人ペースで無理強いしないように配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中でさりげなく希望や思いを聞きだし、実現できるよう配慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の暮らしの中で、全員でそろってすることと、一人一人のペースですることを分けて支援している。一人で過ごしたい方に無理強いはいしないようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や病院受診時は、お化粧したり洋服を外に着替えたりして気分を変えている。買い物に行ったときは気に入った衣類を買うお手伝いをすることもある。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しいものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合った食材を利用し、いろどりや盛り付けを工夫しながら調理している。下ごしらえ、配膳、食器洗いなどそれぞれのできることを職員とともに行っている。	新鮮な魚や地域の馴染みの醤油等を配達してもらい、週に2回程度、近隣の道の駅等に食材の買い物に出かけている。買い物や調理(野菜の皮むき等)、後片付け等に力を発揮してもらい、暮らしの継続を支援している。季節の花見の際には、弁当や鉢盛を用意したり、焼肉や回転寿司等の外食の機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方には主食や副菜の量を加減したり、それぞれの食べられる量を考え食べやすい大きさに切って提供している。また毎日の水分量、食事量を記録しチェックしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでは必ず職員がチェックし見直しをして仕上げている。訪問歯科の指導により定期的な受診も利用し、口腔スポンジや舌ブラシを使って口腔内の清潔に気を配っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけ、状況に応じて声掛け、誘導、見守り、介助を行っている。排泄パターンがつかめれば紙パンツから布パンツに戻すよう努力している。	排泄チェック表を用いて、個々に適した誘導間隔を見出し、個別対応に努めている。結果として紙パンツより布パンツに移行できた事例もある。排便に配慮が必要な入居者には、医師や訪問看護事業所とも連携の上、牛乳・氷水・マッサージの対応や緩下剤の調整等細かく対応している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を記録し、1日の目安に達するよう声掛けしている。野菜の多い食事を心がけ、毎日の運動やお腹のマッサージを取り入れ便秘には気を付けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきで体調を見て入浴していただいている。、外出、通院などでその時間におられないときは、シャワー浴や清拭で対応することもある。職員2名で対応することもあり夏でも湯船につかれるよう支援している。	一日おきの入浴を基本として、午後から夕方までの時間帯で支援を行っている。一番風呂の希望や、必要な方には職員2名での対応を行っている。季節湯や入浴剤を用いた支援を行い、リラックスした中で歌を歌ったり、会話を重ねながら、コミュニケーションを深める時間にもなっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はほとんどの方がリビングで過ごされることが多いが、入浴のない日は居室でゆったり過ごせるよう声掛けしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬においては間違いがないよう職員が数人でその日の薬をチェックしている。処方薬の変更があったときは申し送りノートに記入して職員全員が把握できるよう努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味のあること、継続してきたこと、得意なことを生活歴や家族のお話から把握し、一人一人が生きてる楽しみを持っていただけるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くの道の駅へ季節の花を見に定期的に訪れている。お花見には手作りのお弁当を持って出かけている。ご家族との外出もできるだけ支援している。病院受診の帰りにお寿司を食べに行ったりする方もおられる。	個別に10分から30分程度の散歩コースが設定され、日常的に散歩に出かけている。また食材や日用品の買出し、庭の花壇や畑の手入れ、敷地内のテーブルでお茶を楽しむ等、戸外に出る機会を大切にしている。小グループでのドライブも頻会に企画実施されている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方は買い物や病院受診の際、お財布を持参してもらい支払いをお願いしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からプレゼントや荷物が届いたときはお礼の電話をしていただいている。手紙や年賀状がきたらお部屋に飾ることもある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングは季節感を感じられるようにお花や手作りのもので飾っている。適温を心掛け冷暖房の調整はこまめに行うようにしている。	天井が高く、広いリビングにダイニングテーブル、テレビの周囲に一人がけのリクライニング座椅子が入居者一人ひとりに準備されている。季節ごとに壁面構成されたり、生花を活けたりと、落ち着いた空間が演出されている。自分の居室を認識し難い方に対し、居室入り口やダイニングのイスに目印するなどして配慮している。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓テーブルの他に一人一人にリクライニングソファがありゆったりと腰かけてテレビを見ながらおしゃべりされている。また一人になりたいときはいつでも自由に居室で過ごすことができる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご自宅から使い慣れたイスやソファ、仏壇など思いのこもった品物を持ち込まれ、写真やご家族からのプレゼントを飾られている。	各居室には、ベット・クローゼット・タンスが備えつけられている。基本的には制限無く、個人の荷物は馴染みのものが持ち込まれて、個々に思い思いの空間づくりがなされている。依然手作りされた見事なパッチワーク作品が飾られている居室もあった。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はオープンで全体が見渡せ、一人一人の動きがよくわかる作りになっており、安心して安全な空間を心掛けている。		